

市町村名	与那原町						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【中期的検証事業】							
事業名	来訪者と町民の交流施設整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ) 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	生涯学習振興課	事業実施 年度	平成 24	～ 平成 27	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	来訪者と町民が親睦を深める交流会の開催が可能な施設を整備し、将来のリピーターを生み出し持続可能な観光振興を図る。また、台風や地震といった災害時には来訪者の避難場所として活用し、安全安心な観光受け入れ体制を整備し本町の観光振興を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	総事業費	
	実績報告上の総事業費(最終)	50,410	928,945	432,205	109,250	1,520,810	
	A. 予算現額	50,750	931,000	445,504	113,882	1,541,136	
	B. 執行済額	50,410	928,945	432,205	109,250	1,520,810	
	うち 交付金充当額	25,892	743,156	345,764	87,400	1,202,212	
	執行率(%) (B/A)	99.3%	99.8%	97.0%	95.9%	98.7%	
執行状況の説明	・H24年度は、施設検討委員会において施設規模・内容及び住民アンケートからの要望等の調整に不足の日数を要し、繰越事業となった。 ・H25年度は、実施設計に時間を要したため、工事が遅れてしまい繰越をすることとなった。 ・最終的な事業執行率は、98.7%となり概ね計画通りの事業執行となった。不用額は入札残によるものである。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	年度
	観光交流施設の必要備品整備 ・体育器具・緞帳・カーテン・事務器具 ・トレーニング機器・舞台音響照明・ピアノ等	目標					観光交流施設の備品整備
		実績					観光交流施設の備品整備済
	基本・実施設計の実施	目標	基本・実施設計の策定	実施設計及び建設工事の実施	観光交流施設の整備		
		実績	基本・実施設計の策定	実施設計及び建設工事の実施	観光交流施設の整備済		
	目標						
	実績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	年度
	・観光交流施設の運用開始 平成27年度 10月～3月 来場者数45,000人	目標					10月運用開始 来場者数 45,000人
		実績					10月運用開始 来場者数 18,700人
	観光交流施設の完成	目標	基本・実施設計の策定	実施設計建築工事40%	観光交流施設の完成		
		実績	基本・実施設計の策定	実施設計作成建築工事40%	観光交流施設の完成済		
	目標						
	実績						

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標) ■ 中期にわたる事業効果 □ 後年度に発現する事業効果	達成/進捗状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度 目標/発現年度	
	事業完了後の成果目標	・複合的な機能を持つ観光交流施設 利用者数(45,000人)	目標	45,000人	80,000人	90,000人	90,000人
		実績	75,157人	80,554人	88,838人	101,810人	66,306人
		目標					
		実績					
状況説明	<p>【H28年度】 ・平成28年度より指定管理方式を採用し管理運営を行っている。当該施設を与那原町内外の皆様にも広く認知していただき、地域交流の場として活性化させていく為、意見箱の設置により利用者ニーズや意見等を集約し、直ちに対応可能なものは早急に改善・対応する等を行い利用機会、リピーターを促進させた結果、目標利用者数45,000を超える状況となった。</p> <p>【H29年度】 ・スポーツ面で琉球ゴールデンキングスバスケットボールアカデミーを誘致しクリニックも開催し子供たちの技術の向上や強いモチベーション作りなど大きく健全育成に効果を発揮している。文化的な交流では日露交歓コンサートや世界のうな一んちゅ大会ヨナバルチュ歓迎の集いなど、これまでにない環境の元、地域交流の場として施設活用が出来ている。目標利用者数80,000人を超える結果が出ている。</p> <p>【H30年度】 ・運用開始から約2年半、施設の認知度もまだまだ十分ではないが着実に増えてきている。青少年健全育成町民大会、スポーツフェスタin与那原など町主催事業や指定管理者による自主事業のメニューも増え利用者増大を図っている。又、トレーニングルーム器具の利用頻度がかなり多い為、器具の維持管理費が増えている。</p> <p>【R1年度】 ・施設利用者数については、年々増加しており目標値であった90,000人を大きく超え10,000人を突破し今後まだまだ利用者増が見込まれる状況となっている。それに伴い施設の認知度も着実に定着してきている。また利用者に行ったアンケートを基に事業メニューに反映させるなど積極的に情報発信を行っており、特にアリーナ部分の比較的用户の少ない時間帯に自主事業を組み込む事で空き時間を無くし時間の有効活用にも効果を出している。</p> <p>【R2年度】 ・利用者数は供用開始後最も少ない数値となった。 原因としては新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う施設の閉鎖、時短、さらには各大会や自主事業の休止等によるものである。</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【H30年度】 ・施設整備後、町民の体を動かす健康への関心が高まっている特に雨天時でも関係なく利用できる、施設2階にある関節にも優しい弾力性のあるウォーキングコースが魅力になっている。町民が各種交流、講演、舞台事業等、気持ちの良い環境で施設利用が図られている。</p> <p>【R1年度】 ・順調に町民の利用が増え特に専用利用ではキックボクシング、マルシェなど開催しトレーニング室だけでも町内利用者で2万人町外も含めると3万人超え施設の認知度が着実に向上しているのを実感している。又、指定管理者による事業各教室数も増やし施設の閑散時をうまく活用し利用人数10万人を超える成果を出している。</p> <p>【R2年度】開館時でも、コロナ感染症対策に敏感なシニア層の受講者が多い自主事業については、申込み定員数を下回り開講できない事態も見られ、利用者数が減少した要因の一つとも考えられる。 ・利用者数は減少したが年々施設に対する認知度、期待値は高まっており、特にトレーニングルームにおいては、全日本ヨット競技会に使用されるなど全国的にも認知されてきている。</p>			<p>【H30年度】 ・施設名称、目的、場所、施設の照会など、知らなかったとの問い合わせなどがあるため。町広報誌、他の情報誌、ネット等を活用し施設情報を発信し施設の活性化を図る必要がある。</p> <p>【R1年度】 ・スポーツ、健康、文化教室、講演イベント・ワークショップなど町広報誌や情報ツールをフル活用し更なる施設情報を発信、町民体全体の健康をトータルに整えサポートする場の提供を図る。</p> <p>【R2年度】 ・コロナ禍では開館時の活用が重要と考えている。昨年度は自主事業をリニューアル開講するなど工夫した結果、新たな施設利用者を創設することが出来たことから引き続き工夫を凝らす。 ・すでに認知度が高い施設だが予約方法、イベントや自主事業の情報発信方法など、幅広い年代層に対応した便利で充実した施設運営、環境整備を引き続き図っていく。</p>				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【H30年度】 ・施設の認知度や観光交流の場としての発信、誘致活動、指定管理者自主事業等、まだまだ町内外からの利用者数増大が見込まれる為、舞台を活用した文化公演、町民のスポーツレクリエーション、健康づくりや体力増進事業等、積極的に行う。又、設置されている意見箱の声を集約、安全面に配慮し最大限施設運営に取り入れサービス向上に務める必要がある。</p> <p>【R1年度】 ・引き続き観光拠点の場、交流の場としての活用に努めプロスポーツ教室、大会誘致などを充実させ、受講者に人気のある自主事業通年教室などを軸に幅広い年代層に楽しんでもらえる事業作りを展開し地域内外から親しまれ、施設環境推進に積極的に取り組む。</p> <p>【R2年度】 ・コロナ禍においては家に閉じこもり、社会との繋がりが少ない時期に良い気分転換が出来たという声を貰うなど、引き続き工夫を凝らす。 ・観光拠点・交流の場として活用に努めスポーツコンベンションと協力し大会や合宿など積極的に誘致を実現させ、常に地域住民及び利用者を意識した施設運営、災害時おける避難場所としての備えを意識し、コロナ禍で経験しているさまざまな対策を活かし、安心して利用できるよう施設運営を図る。</p>							